

都立八王子西特別支援学校 教室環境スタンダード

1 なぜ教室環境を整える必要があるのか

教室環境を整えるのは、児童・生徒が学習の場の意味を理解し、「いま何をするのか」「これから何をするのか」を分かりやすくするためです。環境や活動を「構造化」することにより、本校の教育理念である「わかって動く」「考えて動く」ことが可能となります。「わかって動く」「考えて動く」ことができるからこそ、学習内容に踏み込んでいくことができます。

【 教室環境を整えることで・・・ 】

- ・必要な情報に注意を集中しやすくなります。
- ・安心して学級で活動することができます。
- ・自分の行動をマネジメントしやすくなります。 等

『自閉症教育実践マスターブック ―キーポイントが未来をひらく―』（国立特別支援教育総合研究所編著 ジアース教育新社）によると、「学校・教育環境」は教育を行う際の土台であり、全ての学習活動が「学校・教育環境」の上に成り立っています。「構造化」は、この「学校・教育環境」にあたるものです。

【 「構造化」について 】

- ・構造化は、児童・生徒が主体的に学習に取り組むための「方法・手段」です。
- ・構造化は、教員が児童・生徒の行動を管理するためのものではありません。
- ・構造化することが指導の「目的」ではありません。
- ・学校の外は構造化されてないという誤解から、学習環境の構造化をしないと、児童・生徒はそもそも主体的に学習に取り組めなくなります。
(※学校の外の方が構造化に溢れています。)

構造化の主な内容

- | | |
|---------|-----------|
| ・物理的構造化 | ・指導環境の構造化 |
| ・時間の構造化 | ・言語環境の構造化 |
| ・活動の構造化 | |

2 『都立八王子西特別支援学校 教室環境スタンダード』について

『都立八王子西特別支援学校 教室環境スタンダード』は、本校の教室環境の整備について、各学部における共通のスタンスを示したものです。児童・生徒一人一人の発達や障害特性など様々な要素によって、「構造化」の内容や方法はオーダーメイドであるべきです。しかし、学校として最低限の環境整備の規準を設けることで、学部、学級、担任が変わっても、新年度から、児童・生徒にとって、分かりやすく、動きやすい教室環境を用意することができます。

3 小学部（低学年）の教室環境スタンダード

予定ボードは、取り外しができるようにする。

「出欠確認ボード」「帰りの確認ボード」
「係活動表」などは取り外しができるようにする。

- ・週時程表
- ・献立表、
- ・カレンダー、
- ・学年だより、等

- ・週時程表
- ・献立表、
- ・カレンダー、
- ・学年だより、等

センサー
スペース

スチール棚

配膳台

学級の実情や
活動に応じて
構造化等に
使用する。

朝の会などで
いすを持って
集合する。

連絡帳入れ

教材ボックスは、
棚の中に収納

着替え、朝の会、授業で、机やいすの位置を変えることで、活動と場所の理解を促進できるように構造化している。

4 小学部（高学年）の教室環境スタンダード

予定ボードは、取り外しができるようにする。

「出欠確認ボード」「帰りの確認ボード」

「係活動表」などは取り外しができるようにする。

- ・週時程表
- ・献立表、
- ・カレンダー、
- ・学年だより、等

- ・週時程表
- ・献立表、
- ・カレンダー、
- ・学年だより、等

センサー
エリア

スチール棚

配膳台

学級の実情や
活動に応じて
構造化等に
使用する。

連絡帳入れ

教材ボックスは、
棚の中に収納

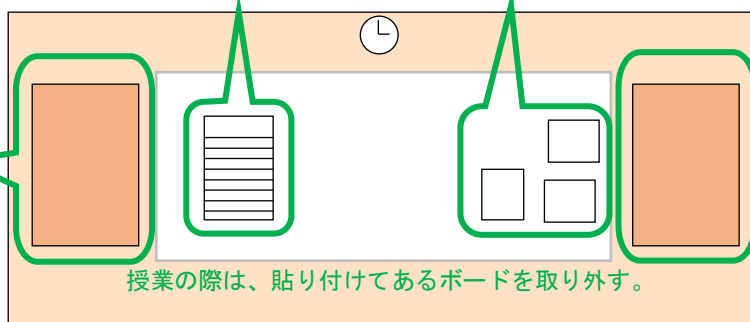
身支度や荷物整理、授業準備などを自分から行えるように動線がシンプルになるようにしている。

5 中学部の教室環境スタンダード

予定ボードは、取り外しができるようにする。
左側に寄せて、ホワイトボード中央を空ける。

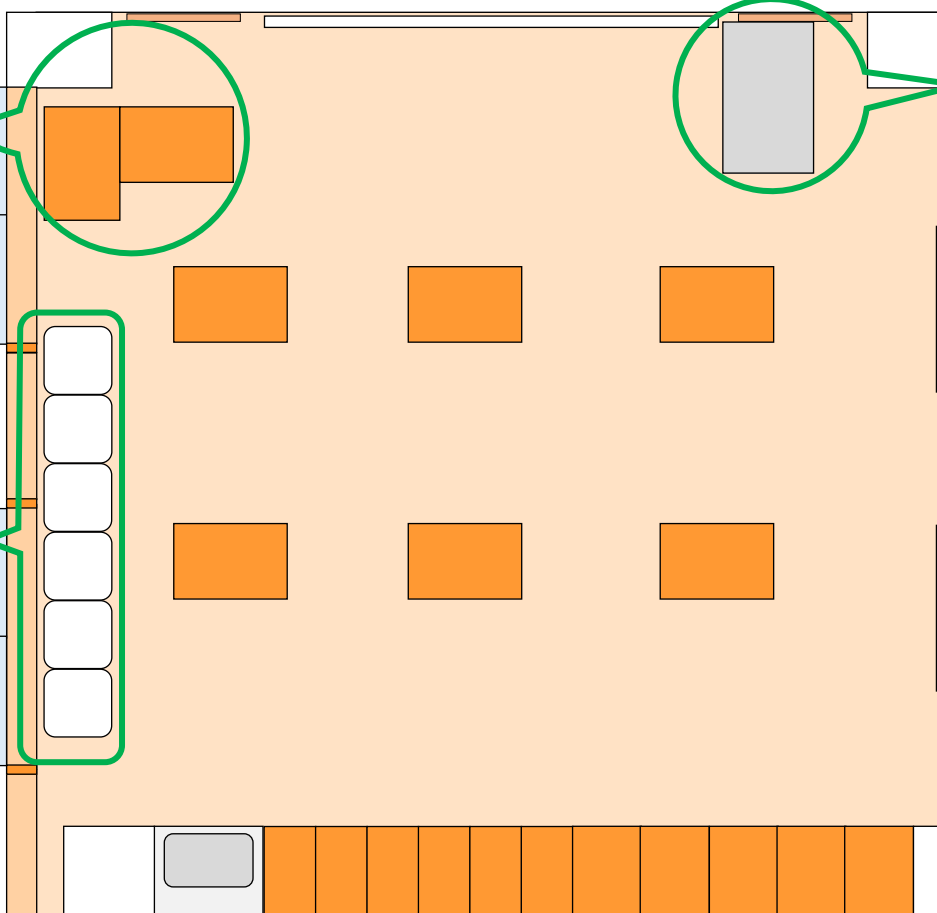
「出欠確認ボード」「帰りの確認ボード」
「係活動表」などは取り外しができるようにする。

- ・週時程表
- ・献立表、
- ・カレンダー、
- ・学年だより、等



- ・週時程表
- ・献立表、
- ・カレンダー、
- ・学年だより、等

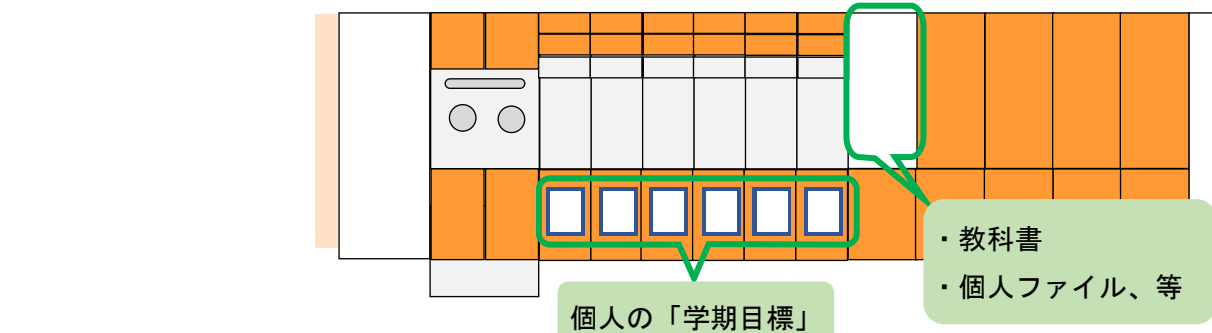
学級の実情や活動に応じて構造化等に使用する。



教卓は、前方の扉前に置く。
生徒が教室を出るときに、教卓にいる教員に報告する。

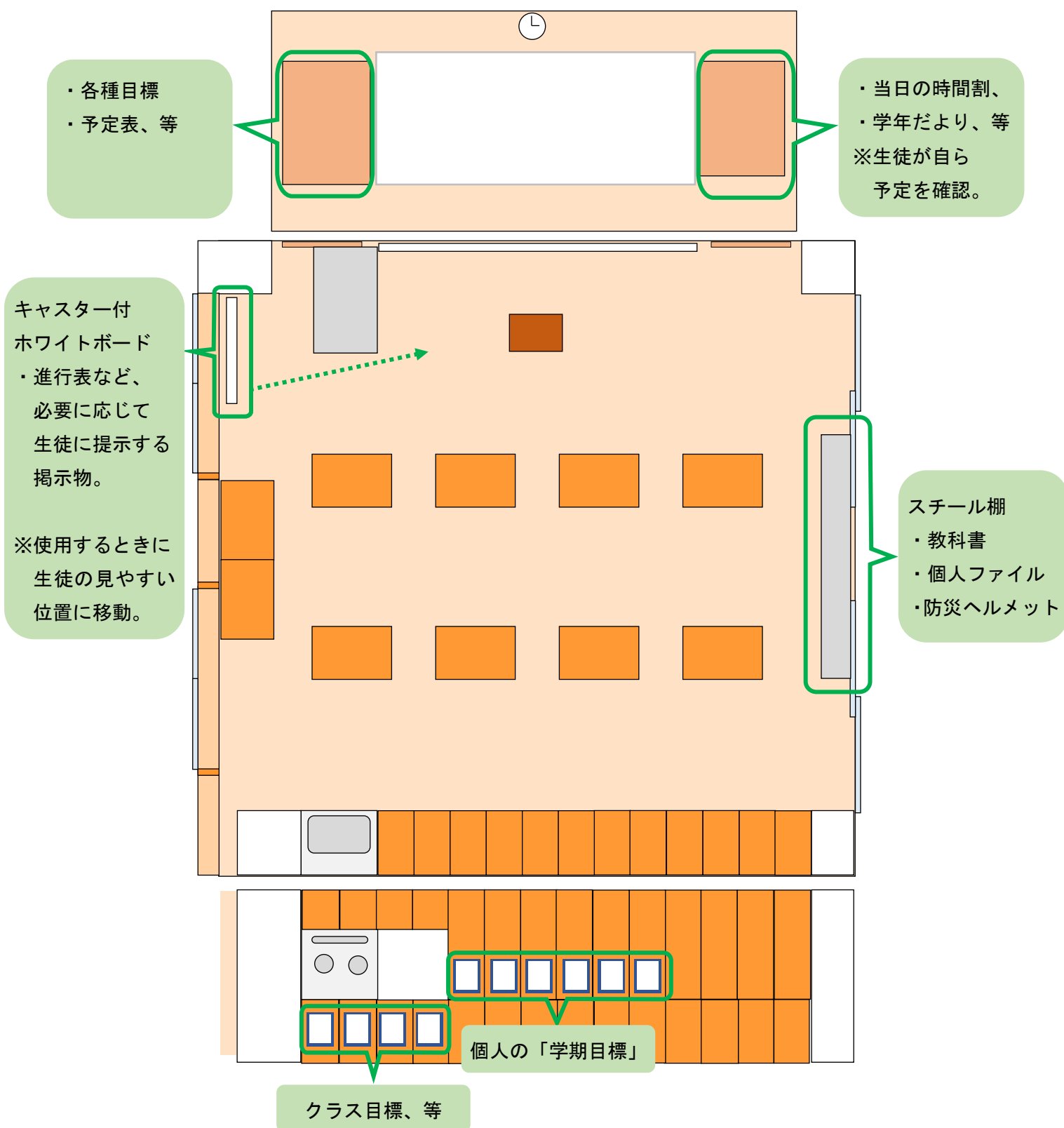
教材ボックスは窓際にまとめる。
前方に置かないのは、刺激になるのを避けるため。

教室の後ろ側は、マットや衝立を置いて、休憩エリアやセンサーエリアに使用する。



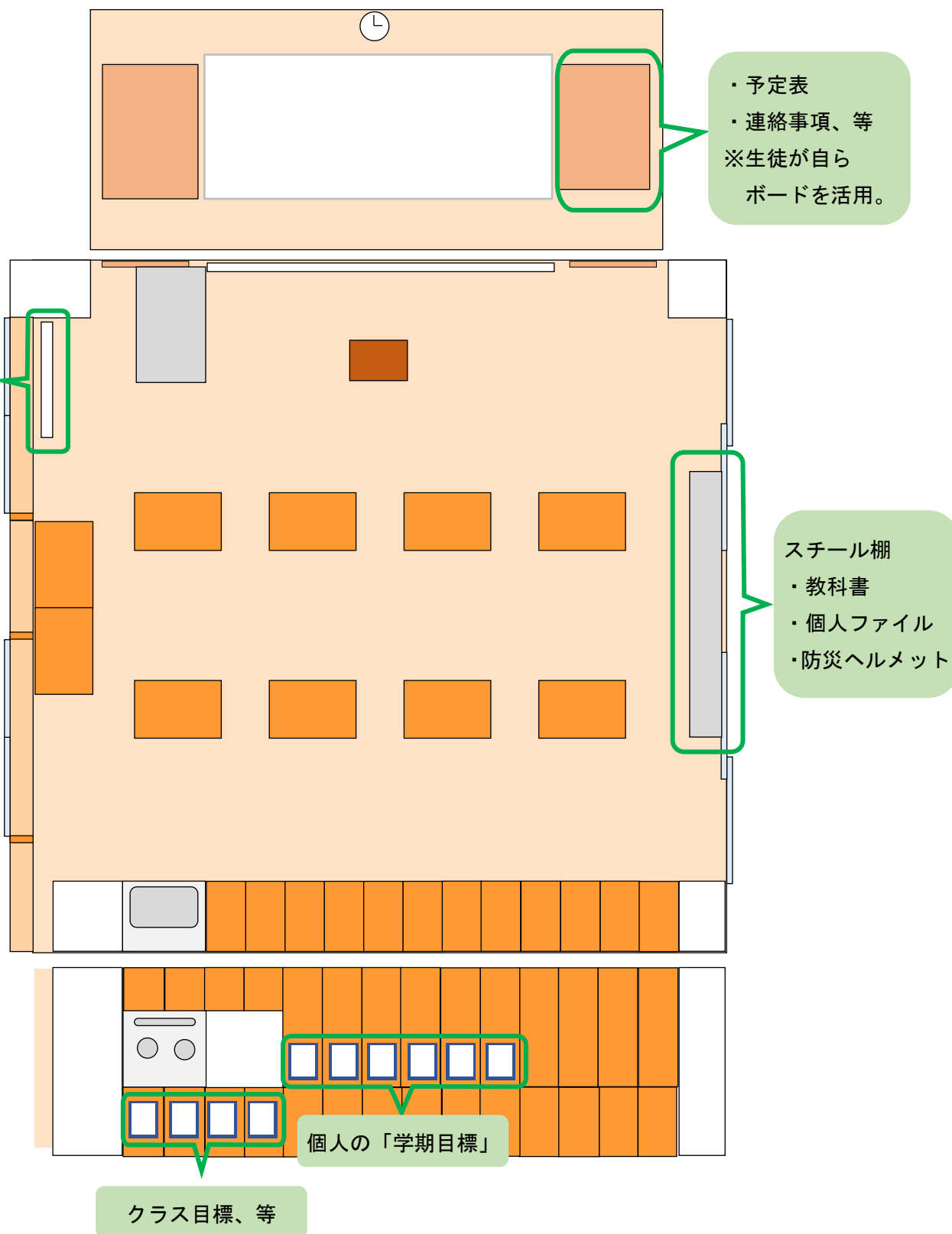
掲示物を減らすことで係活動表など必要な情報に自ら注目できるようにしている。
出入口に教員がいることで、報告などの機会を増やせるようにしている。

6 高等部の教室環境スタンダード（I類、II類） ※I類、II類…基礎基本に重点を置いた教育課程



様々な視覚情報を整理し、系統立てて掲示することで、生徒自らが情報を得られるように環境を整えている。

7 高等部の教室環境スタンダード（Ⅲ類） ※Ⅲ類…職業教育に重点をおいた教育課程



提供する情報の量をできるだけ少なくし、自分から情報を収集したり
予定を管理したりする力を伸ばせるように環境を整えている。